

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103292
法人名	有限会社 託老所あんき
事業所名	グループホーム こんまい「あんき」
所在地	松山市西垣生町1680-1 (電話)089-971-3318
自己評価作成日	平成25年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 7 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「一つ屋根の下、明るく生き生きと暮らし、大家族のような雰囲気の中一人一人利用者さんがその人らしく最期まで生活できるように支援援助する。」

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にある広い日本家屋を改修した事業所で、開設11年目を迎えた。事業所の一部を開放し、誰でも自由に立ち寄れる「縁側」があり、地域の交流の場となっている。地域住民と利用者の関わりが日常的にあり、まさに「あんき」に過ごす雰囲気で溢れている。代表者は地域住民で、職員は謙虚な姿勢で地域との交流に参加し、関係づくりに努めている。代表者や管理者は職員の個性を大切にしながら、一人ひとりの自主性や専門性が高まるように導いており、相互の信頼関係を築いている。今後も認知症ケアに力を入れ、地域との協力体制を深めながら、利用者本位のケアを追求していけるように取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームこんまい「あんき」
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	大政 善輝
評価完了日	平成 25年 7 月 12 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 日々の申し送りやホーム内での研修及び有限会社託老所あんきの全体研修でも行っている。 職員が運営理念に基づいた支援を実践している。	
			(外部評価) 事業所独自の理念を作成しており、職員は入職時に法人全体での研修のほか、職員間で話し合いを重ね、理念を共有している。職員一人ひとりに運営理念は浸透しており、理念に基づいたケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 垣生地区及び自治会の行事に参加し幼稚園の行事にも利用者さんや職員、家族等と一緒に参加している。 (特に防災訓練等)	
			(外部評価) 法人代表者が地域在住のため、町内会や地域住民との繋がりが深く、日頃から交流をしている。職員は積極的に町内会行事に参加し、事業所や利用者の理解が得られるように努めている。事業所の一部を地域住民が気軽に立ち寄れるよう開放しており、利用者と地域住民はごく当たり前交流をし、地域での暮らしを互いに支え合う関係が構築されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域において認知症の理解を求めため、運営推進会議やボランティアグループ(縁側プロジェクト)と合同主催によるセミナーの実施「老いる、死ぬる、支える」4回シリーズで実施する。 地域の中のコミュニティレストランをボランティアさんと一緒に開催している(月4回)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 認知症高齢者が地域で暮らし続けるための「つながり」を昨年度よりメインテーマにし今年度も認知症高齢者の虐待法や地域との関わりについて6回シリーズで実施する。 防災訓練は町内と共に会議を行い、実施し、評価を共にしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、町内会長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、縁側プロジェクト会員、職員等の参加を得て開催している。地域へ開催案内のチラシの配布や地道な声かけを継続し、会議には多種多様な参加があり、活発な意見交換が行われている。議題には年間テーマ「つながり」を設定し、参加者と一緒に学び、考える機会となっており、出された意見をサービス向上に活かしている。また、防災訓練や認知症などの勉強会を一緒に開催する工夫をしており、地域に情報発信をしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員は市が実施する研修に積極的に参加し、ホームで行う行事は案内を出し参加をしてもらう。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の実情や活動を積極的に伝えている。市担当者とは日頃から気軽に連絡や相談できる関係づくりをしており、繋がりが途切れることのないように関係継続に努めている。また、市主催の研修等にも参加をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員全員で身体拘束に対する研修をし近隣の方々との交流を密にし、ホーム全体の雰囲気や近隣の方や家族の方と共に意見を聞き職員に周知している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束はしないことを基本としており、職員全員で理解を深めケアを実践している。安全面を考え、身体拘束がやむを得ない場合は職員で話し合いや勉強会を開催している。身体拘束や虐待など勉強会を地域住民と一緒に開催しており、地域住民に縁側を開放し気軽に立ち寄れる環境は、「いつも見られている」という職員の意識をより引き締める効果がある。玄関は終日解放され利用者の自由な暮らしを確保している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 前項でも述べたように運営推進会議で虐待法の研修を行い、なお近隣や家族の方と密に連携をとり意見を取り入れ、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修を受けた職員が報告研修を実施し、なお権利擁護について司法書士や社会福祉士等の情報を集め職員に徹底を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとり、説明およびケアの内容や雰囲気を感してもらい理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常生活の中で利用者さんとの会話から意見が聞けるように心がけている。 家族やボランティアさんとの交流により職員に伝えにくいこと等は伝えやすいような雰囲気を作り、また家族さんには意見箱を設置しているほか家族の訪問の機会をとらえ、意見等を話してもらえるように職員が心がけている。 (外部評価) 職員は利用者や家族等にとって気軽に思いや意見が話せるような雰囲気づくりに努めている。家族には利用料を直接事業所に支払いに来てもらえるよう依頼し、疎遠にならない機会づくりをしている。出された意見や要望は、職員間で周知し速やかに検討し運営に反映するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ケアカンファレンスをケアマネジャー、代表、管理者、職員が意見を出し合う場を設け、提案されたことについては機会を設け反映している。 (外部評価) 日頃の業務の中で、職員同士で声を掛け合い気軽に話し合いができています。管理者は職員一人ひとりの気づきや自主性を尊重しており、得意分野を伸ばしていけるような助言や悩みを聞く機会を設けサポートしている。職員からいつでも意見は言えるようにしており、出された意見を話し合い管理者や職員間で解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員間のコミュニケーションを図り、環境衛生についても外部講師を招き職員全体で意識統一を図り、働きやすい環境作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 前項で述べたケアカンファレンスに基づき、利用者さんの状態把握を行い、それに伴うケアの実際の内部外部の研修を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 事業所間の問題点を抽出し、他事業所との合同研修を実施したり、個々の職員間の連携を図り相互の事業所に訪問等実施している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人との信頼関係を構築するために家族や本人とのコミュニケーションを大切にし、本人の会話の中から不安なことや要望を聞き安心の確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族とのコミュニケーションを図り、相談時に十分な時間をとり相談内容から求められていることを受けとめている。内容によっては代表とも相談している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、情報提供し一緒に考える努力をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごしながら本人の趣味や生活歴、風習を考慮し、利用者間の支えあいを引き出しながら暮らしの中で発揮してもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事等に参加してもらい、雰囲気を楽しんでもらい、時には本人の好物の差し入れ等により、家族と団欒の時間をとれるなど切れ目の無い関係を保っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活歴の中で馴染みの人や過去の仕事などを聞き、その場面や場所を確保しいきいきとした生活をしてもらうよう努力している。	
			(外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた関係や習慣、要望は、事業所を利用していても変わりなく継続できるように前向きに検討し支援している。事業所での生活が新たな馴染みの場所となっており、他の利用者や家族、地域住民等を含め皆で支えることができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん同士の共通の話題や仕事、レクリエーションを通じお互いの関係が深まるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者さんや家族の思いを聞き取り、大切にしているものや思いを受けとめ、いつでも来てもらえる様な声かけや雰囲気作りに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で本人の会話や希望や家族からの意向や希望を聞き、ケアカンファレンス時に職員の意見も求めながらケアプランに反映している。	
			(外部評価) 日々の会話を大切に思いや意向を把握するようにしており、職員と利用者、家族等の関係が深まるように努めている。把握した情報は記録に残し職員間で意向を共有している。把握が困難な利用者には、これまでの生活歴や家族等から情報収集、利用者の変化を観察し、記録、検討の場を設け、利用者の思いに沿えるケアにチームで取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からの聞き取り、生活歴の把握、生活の中で見てきたことを家族や本人に再度聞き取り、馴染みの暮らしの継続に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の食事、入浴、排泄、バイタルによる基本的な情報把握を行い、時には医療との連携を図りながら本人らしく暮らしの継続に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族から意見を聞き、職員全員でカンファレンスを行い、それに基づき介護計画を作成している。 (外部評価) ケアカンファレンス、モニタリングは職員全員で関わるように取り組んでおり、利用者や家族等の要望を反映して、現状に即した介護計画を作成している。経過記録は介護計画に沿ったものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の出来事や気付いたことは申し送りノートに記述し、全員が情報の共有を図り、ケアマネジャーや代表と共に介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外泊や外出、事業所主催の家族旅行等参加を呼びかけ実施している。また他事業所やボランティアさんとの交流を深め、多様な取り組みを実施している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通じて参加してもらったり、訓練事業や地区の行事や幼稚園との交流、地域と医療機関およびボランティアさんとの支えあいについて学習や行事を実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人および家族の希望により、往診や訪問診療、その 他医療機関に同行し、家族への報告や同行を行って いる。	
			(外部評価) 希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得て受 診できるよう支援している。協力医療機関との協力体 制を整備しており、往診や緊急時対応等のバックアッ プ体制もあり、利用者や家族は安心して利用するこ とができる。職員に看護師を配置し、医療と介護の連携 が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 法人内での看護師や各医療機関の医師及び看護師と連 携をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 馴染みの関係を切れないように職員が順次面会に行 き、家族との連携を図りながら必要に応じて各病院の 医師及び看護師に状態を聞き、退院時の支援を行っ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日ごろから本人の希望、家族の気持ちを医師に伝え、 職員全員が情報の共有を図り状態の変化に応じて連携 し、終末期であることを医師から家族に伝えてもら い、家族と職員、医療機関で今後の在り方についてカン ファレンスを行い、家族の意向を受け止め最期まで その人らしく暮らせるように看取っている。	
			(外部評価) 看取りの指針を定め、協力医療機関と連携を図りなが ら地域の関係者と一緒にチームで支援できるよう取り 組んでいる。入居時や利用者の状態の変化に応じて、 利用者や家族に詳細な連絡や説明をして意向の確認に 努めている。利用者一人ひとりの思いを第一に、安心 し終末期を過ごせるよう勉強会や話し合いを行い、心 をこめたケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアル作成し、マニュアル通りの訓練をしている。救急法、応急手当の研修も実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 町内の防災訓練や、自施設主催の防災訓練、避難訓練を実施し、災害時における避難の仕方についても町内の方々に協力をお願いするとともに、入所者の顔を覚えてもらい緊急時には協力して頂ける体制をとっている。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しているほか、運営推進会議や町内会との合同訓練を行うなど、地域ぐるみで災害対策に取り組んでいる。消防署の立ち会いで具体的なアドバイスをもらい取り入れるほか、緊急連絡網の整備、あらゆる災害を想定した訓練を繰り返して実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人に合わせた声かけや昔の馴染みのある呼び方で対応している（家族にも確認している）。記録は厳重に保管している。 (外部評価) 勉強会資料等に利用者の写真を使用するところがあるが、個人情報に関する同意書を取り使用している。個人情報に記載された書類は管理スペースで保管し厳重に取り扱っている。また、職員は利用者を敬い、尊厳を損なわないよう不快感や羞恥心に配慮して支援している。利用者の呼び方の希望がある場合は、家族等の同意を得て、馴染みのある呼び方を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できる方については本人の意思や家族の意思を尊重し、その人に合ったケアを行っている。本人が自己決定できにくい方については家族と共に考え支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんと共に一日の過ごし方、何か食べたい物があるか話し合えるような雰囲気作りのなかから利用者さんの優先に従い楽しく過ごしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室に行きたい人は希望する美容室に行ってもらったり、家族と共に外出時に衣服の購入等をしてもらう。 毛染めや時にはマニキュア等も行う。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 夜勤者が下ごしらえをして日勤者と利用者さんと共に役割分担をして無理のない範囲で調理や配膳、後片付けを職員と一緒にしている。時には、出身地域の郷土料理等も交えながらまた外食の機会も多くとっている。	
			(外部評価) 利用者が畑で育てた野菜が日々の食卓に上り、郷土料理やリクエストを取り入れたバラエティー豊かな献立となっており、利用者は楽しみにしている。職員は利用者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら和やかに食事をしている。薄味でもおいしく食事を楽しめるよう配慮したり、すしや牛丼の外食を取り入れている。また、下準備や片付け等の利用者ができることを役割を持って手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 昔ながらの食材にこだわり、昔食べていた物を継続、食事量の把握と記録し、職員間で情報の共有を行い、水分確保ができるように工夫を重ねている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者さんの希望により、毎食後は必ずしも歯磨きをしていない人もいるが、入浴時には個々の入念な歯磨きと口腔ケアを実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを職員間での情報の共有をし、紙パンツを使用している方が大半であるが、定期誘導はもとより布パンツを使用してみたりと工夫を重ねている。日中においては、トイレ誘導を習慣にしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個人のリズムを大切に声かけやトイレ誘導を行っている。薬に頼らず食事や飲み物、生活習慣を見直し、便通を整えるよう努めている。利用者一人ひとりの状態に合わせて、介護用品を使用するなど職員間で話し合い、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘についての研修及び解剖生理学の教本等で排泄のメカニズムや食材、水分の量や適度な運動を実施している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) お湯の温度、入浴の時間帯等一人一人の希望に配慮し入浴は毎日実施している。	
			(外部評価) 利用者は希望に応じて、毎日入浴ができるよう支援している。利用者の健康管理や安全面に配慮して、希望時間などに浴いながら入浴を楽しんでいる。利用者が畑仕事の後や外出から帰った時に、夜間でもゆっくりシャワーで汗を流せるよう、個々の生活習慣を大切に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の一日のリズムに合わせたお昼寝や庭での日光浴及び散歩等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の服薬管理を行い薬の効能、効果、副作用、使用上の注意等を添付し、職員全員に周知している。病態の変化に合わせて各医療機関との連携を密に行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の得意としていることを日々の生活の中に取り入れ、外食やドライブまた家族旅行等本人が希望する支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 庭で過ごす時間も多くなり、近所の人との交流やまた四季折々の行事及び法人で行う日帰り温泉旅行や法人が実施する家族との思い出旅行等も実施している。町内の遠足にも職員と希望する利用者さんと一緒に参加している。	
			(外部評価) 日頃から利用者一人ひとりの思いを把握し、職員間で情報を共有しながら行きたいところに行けるよう支援している。町内会や家族との旅行に参加したり、事業所と家族、地域住民、ボランティア等協力しながら思いに沿えるように外出支援している。また、日頃から利用者が畑で野菜を作れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物や外食時にはそれぞれの好物やメニューを楽しんでもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からかかってくる電話に本人が対応し楽しく話してもらったり、状況をお知らせして安心してもらっている。手紙やはがきが届いたときは本人に手渡し一緒に読んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や馴染みの置物など心地よく過ごせるような設えに工夫している。	
			(外部評価) 事業所は民家を改修した建物で、住み慣れた家にいるような空間となっている。利用者は自然にキッチンや居間、畳スペースなど思い思いの場所で自由にくつろぐことができる。冬は暖炉や床暖房を使用して暖かく、夏にはグリーンカーテンを取り入れて涼しく感じられる。壁には利用者の書いた塗り絵を貼るなど季節感あふれ、居心地の良く過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 庭の見える廊下やウッドデッキにイス等を置き、くつろげる空間を提供している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に本人と家族が相談して馴染みの家具や品物を持ってきてもらっている。	
			(外部評価) 居室は広々とした和室の続き間を個室として使用しており、自宅にいるような空間となっている。居室にはベッドが備え付けとなっているほかは、利用者が使い慣れたものを持ち込むことができ、清掃や臭気にも配慮され、居心地よく過ごすことができる。また、家族等が宿泊することもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) それぞれの身体機能に応じた生活リハビリを取り入れ、体力の維持向上に努めている。畑で作物作りに生きがいを感じ人の役に立つことの喜びを感じ自立支援を行っている。	